

文献からみた医師・患者関係：

PubMedを対象にした計量文献学的アプローチ

Bibliometric analysis of the papers on “physician-patient relations” in the PubMed

山崎 茂 明

YAMAZAKI, Shigeaki

1. はじめに

医師と患者の関係は、時代とともに変化しており、より開かれた同等の関係として定義されようとしている。Informed consentの普及、一般の人々からの医療への関心増、患者中心の医療サービスの展開、EBMの浸透、医療情報の共有とアクセスの拡大など、医師・患者関係を問い直し検討する必要性が出ている。質の高い医療サービスの実現にあたり、両者の関係が重要な基盤となる。しかし、日本では正面からあまり論じられていないのではないだろうか。また、現在、『「根拠に基づく診療ガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究：患者・医療消費者の参加推進に向けて』というテーマで、検討が進んでいるが、医師と患者が共有すべき診療ガイドラインの作成・利用・普及にあたり、円滑な医師・患者関係が存在する必要がある。このような問題を背景として、「医師と患者の関係」へ、計量文献学的なアプローチから、その現状と課題を示してみたい。

世界の医師、医学研究者、医療専門家をもっとも信頼している文献データベースであるPubMedには、「医師と患者の関係」を扱った文献にたいして、「Physician-patient relations」というMeSHキーワードを与えている。この用語の定義は「医師と患者の間の相互作用」とされている。PubMedには、現在1500万件以上の文献情報が蓄積され、毎年約55万件前後が加えられている。これらの文献には、平均して10語程度のキーワードが、検索のキーとして付加されている。これがMeSH(Medical Subject Headings)と呼ばれる約2万語の用語リストである。Physician-patient relationsというMeSHは、1963年の第2版MeSHにすでに存在しており、おそらく1960年の初版から存在していたと推測できる。1973年に「Informed consent」がMeSHキーワードに加えられ、主に1971年以降の文献からこの用語で索引されている。「Informed consent」は、「Physician-patient relations」から独立したものであることが、MeSHの用語履歴から示されていた。

今回の調査目的は、この「Physician-patient relations」のMeSH用語で検索される文献をもとに、文献数の年次変化、主要誌の特定、記事別の分析、サブヘディング別論文数、発表

言語分布などから、この分野の特徴を概観してみよう。

2. 対象と方法

米国国立医学図書館が製作するPubMedデータベースをもちいて、「Physician-patient relations」のMeSH用語で検索された16268文献を調査対象セットとした。調査は2004年12月23日に行った。調査データは、個人文献管理ソフトであるProCiteにダウンロードし、分析を行った。また、「Informed consent」のもとで検索された10198論文についても、比較の意味で年次変化と主要掲載誌について、データを収集した。なお、「Physician-patient relations」などのMeSHキーワードは、「Major MeSH」に限定しており、このキーワードが対象文献において主要な内容として認められたものになっている。

3. 結果と考察

1) 「Physician-patient relations」と「Informed consent」文献の年次変化

Physician-patient relations 文献の年次変化を、1964年から2004年で示した(図1)。Index Medicusとして1879年に創刊され、1966年にコンピュータ製作へ移行し、記事の充実と迅速

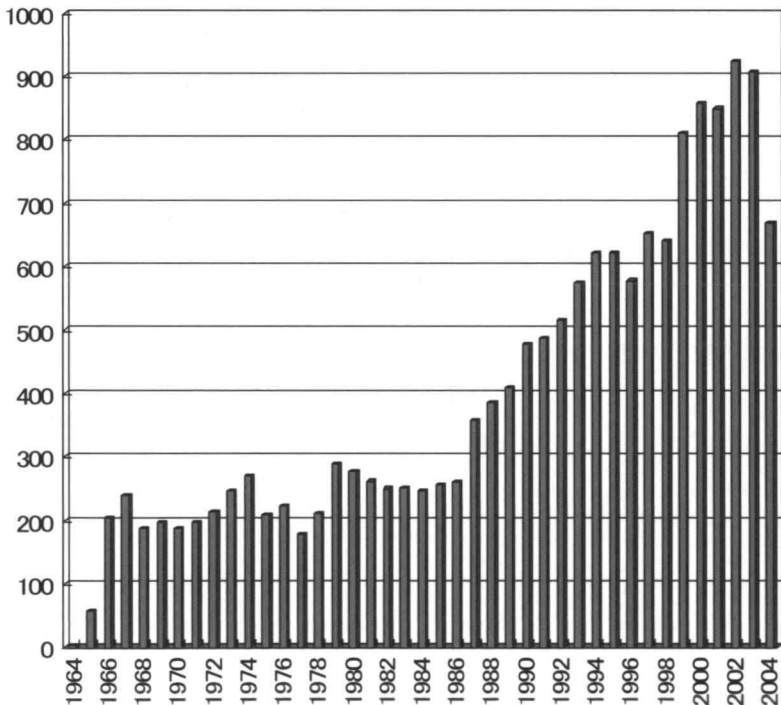


図1 Physician-patient relations 文献数の変化 (1964年-2004年) (PubMed: 2004年12月23日現在)

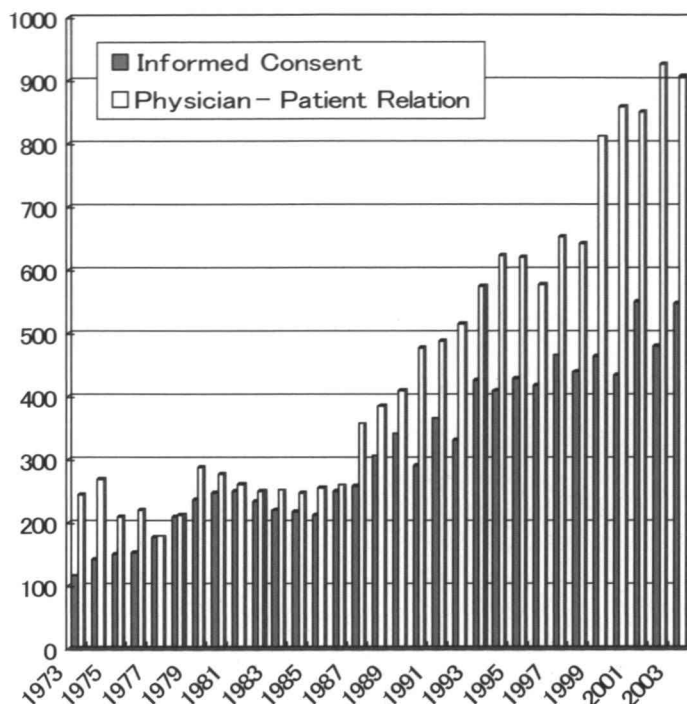


図2 Informed consentとPhysician-patient relations文献の年次変化

な刊行が可能になった。その意味で、1966年が本格的な再出発になった年である。この1966年に、すでに204件の論文が、Physician-patient relationsのキーワードで索引されていた。その後1986年までの20年間に、大きな変化はなく推移していたが、1987年以降文献数の急激な上昇が続いた。1999年には年間800件を超えるようになった。この上昇は、一般の人々からの医療への関心増と、患者中心の医療サービスの展開、EBM（Evidence-based Medicine）の浸透などに関連するものであろう。

Physician-patient relationsのキーワードに含まれ、その後1973年に独立したMeSHとして用語リストに加わったInformed consent文献の年次変化を、1973年から2004年までで、合わせて示した（図2）。Physician-patient relations文献は、1973年にInformed consentが独立し、以後文献数を減らすが、すぐに回復し、1987年以降に上昇へ転じており、それはInformed consentの上昇よりも急激であることに気づく。

2) 「Physician-patient relations」文献を掲載する主要誌は

Physician-patient relations領域において、多くの論文を掲載している主要誌を識別するためにランクリストを作成した（表1）。1位はJAMA、2位はBMJと、米国と英国を代表する医師会雑誌が多くの記事を掲載していた。4位のAnnals of Internal Medicine、5位のCMAJ誌などを入れると総合医学雑誌が上位を独占した。この領域の記事を掲載している専

表1 Physician-patient relations文献の掲載誌ランク

順位	雑誌名	文献数
1	JAMA	565
2	BMJ	361
3	Med Econ	341
4	Ann Intern Med	309
5	CMAJ	266
6	J Fam Pract	231
7	Soc Sci Med	219
8	J Gen Intern Med	206
9	Lakartidningen	189
10	Lancet	170
11	Acad Med	164
12	Aust Fam Physician	156
13	Fam Pract	152
14	N Engl J Med	150
15	Fam Med	146
16	Am J Psychiatry	136
〃	Med J Aust	136
18	Patient Educ Couns	123
19	Pharos Alpha Omega Alpha Honor Med Soc	117
20	Minn Med	110
21	Tidsskr Nor Laegeforen	108
22	Can Fam Physician	106
23	J Med Ethics	103
24	West J Med	101
25	Arch Intern Med	100

PubMed: 23 Dec, 2004

門誌としては、Medical Economics（3位）、Social Science Medicine（7位）などである。11位であるが、全米医科大学協会のAcademic Medicine誌があり、医学教育の重要主題として取りあげられていることを示している。またFamily medicineに関係する雑誌も、多くの論文を掲載している。Lancetは10位、New England Journal of Medicineは14位であった。なお、スウェーデンのLakartidningen誌は9位であり、ノルウェーのTidsskrift for den Norske Laegeforening誌は21位であり、患者の権利意識の強い北欧での関心の高さが顕著である。

一方、Informed consent領域の主要掲載誌ランクを作成すると（表2）、BMJが432論文を掲載し1位であり、2位はLancet誌であり、上位1、2位をイギリスの雑誌が占めていた。Informed consentのテーマでは、英国誌の活発な掲載が示されている。5位のHastings Center Report、7位のJournal of Medical Ethics誌、10位のJournal of Clinical Ethics誌などから、倫理的な関心の所在が推測できるだろう。また、法律関係誌も上位に入っている。

表2 Informed Consent文献の掲載誌ランク

順位	雑誌名	文献数
1	BMJ	432
2	Lancet	217
3	JAMA	167
4	IRB	149
5	Hastings Cent Rep	144
6	N Engl J Med	143
7	J Med Ethics	121
8	Med Law	100
9	CMAJ	98
10	J Clin Ethics	71
11	Annu Rev Popul Law	10
"	Nurs Times	10
13	Med J Aust	69
14	Health Law Can	64
15	N Z Med J	57
16	Issues Law Med	53
17	Anaesthesia	52
"	Br J Nurs	52
"	Dtsch Med Wochenschr	52

PubMed: 23 Dec, 2004

3) 論文の記事別にみた分析

Physician-patient relations文献の記事別分布を見てみよう。PubMedの出版タイプ (Publication type) を検索キーにして、研究論文 (Journal article)、レビュー (Review)、レター (Letter)、論説 (Editorial)、ニュース記事 (News) に分けて示した (表3)。特徴は、研究論文の比率の高さである。つまり、内容的に軽く触れるというものでなく、本格的にPhysician-patient relationsのテーマを論じている文献が77.4%を占め、レビュー論文も5.6%、論説記事も5.9%になっていた。また、レター記事の比率は9.1%を占め、広く医学界で討議されている。

レビュー論文の主要な掲載誌をみると (表4)、1位Patient Education and Counseling、2位Social Science & Medicineと、国際的商業誌 (Elsevierグループ) が入っている。3位はJournal of General Internal Medicineであった。

論説記事の掲載誌ランクをみると (表5)、Journal of General Internal Medicine誌が1位、2位にBMJとJAMAが入り、これらの総合医学誌でオピニオンが掲載されていた。

レター記事の掲載誌ランクから (表6)、米国、英国、カナダの医師会雑誌で、多くの論議が展開されていることが明らかになった。

表3 Physician-patient relations 文献の
記事別分布

記事	文献数	シェア (%)
Journal article	12594	77.4%
Letter	1484	9.1%
Editorial	958	5.9%
Review	910	5.6%
News	173	1.1%
Others	149	0.9%
Total	16268	100%

PubMed: 23 Dec, 2004

表4 Review記事掲載誌ランク

順位	雑誌名	文献数
1	Patient Educ Couns	28
2	Soc Sci Med	24
3	J Gen Intern Med	16
4	BMJ	14
5	Tidsskr Nor Laegeforen	13
6	Prim Care	12

PubMed: 23 Dec, 2004

表5 Editorial記事掲載誌ランク

順位	雑誌名	文献数
1	J Gen Intern Med	35
2	BMJ	28
"	JAMA	28
4	J Fam Pract	18
"	Plast Reconstr Surg	18
"	Postgrad Med	18
7	Fam Med	17
8	Med J Aust	16
9	Ann Intern Med	15

PubMed: 23 Dec, 2004

表6 Letter記事掲載誌ランク

順位	雑誌名	文献数
1	JAMA	140
2	BMJ	130
3	CMAJ	84
4	Ann Intern Med	72
5	N Engl J Med	63
6	Lancet	59
7	J Fam Pract	34
8	N Z Med J	33
9	Br J Gen Pract	32
"	Med J Aust	32

PubMed: 23 Dec, 2004

4) サブヘディングからみた比較

Physician-patient relations の MeSH キーワードが付された文献には、Standards、Education、Ethics、History のサブヘディングが付けられているものがある(表7)。Standards のサブヘディングを占めるものが7.2%、次に Education で4.1%になっていた。しかし、全文献の86%には、サブヘディングが付けられていない。

5) 発表言語別分布

論文の発表言語から16268文献の分布を調べた(表8)。英語が82.6%を占め、つぎにドイツ語が6.0%になっていた。PubMed からみた範囲であるが、日本語は0.5%でしかなく、一方スウェーデン語は1.3%になっていた。日本での文献数については、医学中央雑誌などもちいた調査が必要だが、関心の低調さが示唆されている。

6) 日本における医師・患者関係とインフォームドコンセント文献の生産

医学中央雑誌のWEB版を用いて、日本の医師・患者関係とインフォームドコンセント文献の生産をとらえた。医学中央雑誌のシソーラスにより検索を行った。なお、医学中央雑誌

表7 サブヘディング別

Sub-heading	文献数	シェア(%)
Standards	1179	7.2%
Education	659	4.1%
Ethics	231	1.4%
History	192	1.2%

PubMed: 23 Dec, 2004

表8 Physician-patient relations文献の発表演語分布

言語	文献数	シェア(%)
English	13443	82.6%
German	977	6.0%
French	455	2.8%
Spanish	233	1.4%
Swedish	211	1.3%
Italian	127	0.8%
Dutch	105	0.6%
Russian	87	0.5%
Japanese	75	0.5%
Danish	73	0.4%
Others	482	3.0%
Total	16268	100.0%

PubMed: 23 Dec, 2004

は、PubMedでは収録していない記事タイプである「学会抄録」を含んでいる。医師・患者関係の文献は、1985年から1968文献が検索され、このうち学会抄録を除外すると1562文献であった。インフォームドコンセントの文献は、10036が検索され、学会抄録を除外すると7279文献になっていた（表9）。

日本における生産文献の特徴は、インフォームドコンセントに関する主題は発表されているが、医師・患者関係の文献は、発表数が少ない点である。PubMedでは、医師・患者関係を論じている文献の方が、インフォームドコンセント文献よりも多く発表されている。日本では、医師と患者の関係という場面で、医療サービスへアプローチする視点が少ない。EBMや診療ガイドラインの問題も、医師・患者関係の視点から、より展開する必要性が示唆される。

4. まとめ

PubMedからPhysician-patient relationsに関する文献を検索し、その年次増加傾向、主要誌の識別、論文記事や発表演語からみた特性を明らかにした。「医師・患者関係は」、早くから重要な問題と認識されており、1966年のIndex Medicusのコンピュータ製作時代から、すでにMeSHキーワードになっており、毎年200前後の論文が発表されていた。とくに、1987年以降は、急激な上昇を持續しており、このテーマの重要性が示されている。取りあげている雑誌は、JAMAやBMJといった米英の代表的な医師会雑誌である。記事の種類からは、本格的な研究論文が多く発表されていることを明らかにしており、レター記事はJAMA、BMJ、CMAJなどの代表的医師会雑誌を中心に討議されていた。また、言語や主要掲載誌の分析から、北欧での関心の高さも示された。日本では、Informed Consentは語られている

表9 医師—患者関係とインフォームドコンセントの文献数変化

医師—患者関係	年	インフォームドコンセント
332	2004	1080
358	2003	1121
256	2002	1135
238	2001	1292
145	2000	891
90	1999	973
73	1998	808
75	1997	503
35	1996	609
63	1995	443
38	1994	462
30	1993	282
49	1992	196
42	1991	128
43	1990	70
37	1989	26
34	1988	16
21	1987	1
8	1986	0
1	1985	0
1968	合計	10036

出典：医中誌WEB 2005年1月6日

が、「医師・患者関係」への関心は低いままである。「根拠に基づく診療ガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備のために、医師・患者関係の検討がなされる必要がある。

本稿は、平成16年度厚生労働科学研究班『「根拠に基づく診療ガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究：患者・医療消費者の参加推進に向けて』（主任研究者：中山健夫）による研究プロジェクトの一部である。